

第8回中野区交通政策推進協議会（第1期）

1. 日時・会場

令和6年（2024年）7月10日（水）午前10時から午前11時10分
中野区産業振興センター 多目的ホール

2. 協議会の様子



3. 議事

公共交通ネットワークの充実に向けた取組について

【主な意見】

- 乗り残し防止対策を講じることは良いと思う。ただ、高齢者の方がWEB上で混雑状況等を確認することは、難しい場合もあるため、他の方法も含めて検討する必要があると思う。
- 説明資料の通り、実証運行の評価対象は、運行収支だけではなく、「外出機会の増加」等の効果があるものとして評価を考えてみてはどうか。併せて、収支率の目標設定に関しても、再検討の必要があると思う。

4. 報告事項

中野区地域公共交通計画の取組について

【主な意見】

- 現在の公共交通利用率が高い中で、将来、多様なモビリティが普及した時に、中野区内の道路空間やネットワークが受容しきれなくなる可能性が考えられる。将来的にも、現在の公共交通利用率が維持できるような施策展開の検討が必要である。
- モビリティ・マネジメントとして、バスの視点が強い内容である。鉄道やタクシー等の既存公共交通手段の役割分担についても、議論する必要がある。
- コミュニケーション施策では、高齢者や子どもだけでなく、大人への教育も特定小型原動機

付自転車の利用マナー等が問題となっていることから必要になると思う。

○中野区が目的地となるような視点や区内を公共交通で移動する視点等も、モビリティ・マネジメントの中に含めて良いのではないか。

○今回の資料は、モビリティ・マネジメントの考え方を取り込んだ地域公共交通計画全体のアクションプランになっているかと思う。資料のタイトルを再度考えると良いかと思う。

○資料に記載の乗換割引等の手法は、アプリでのサービス提供に依存するのではなく、ＩＣカードの活用も含めて検討を行うべき。

○公共交通の可視化について、リアルタイムの情報の可視化も視野に入れつつ、公共交通の維持のための可視化であると理解した。中野区が示す公共交通の情報が何を目的としているか整理するべき。

以上